

認知症状のある人の笑顔は

認知症状のある人は、一人ひとり現れ方が違うので、どのような状態が良いか…正解が分かりにくい特徴があります。ケアする人への正解は、お相手の笑顔です。笑顔は、ケアラーに対してのごほうび、トロフィーのようなものではないでしょうか。

★認知症状のある人が、不案を感じていないような印象ならOkです。笑顔になったら、1ポイントゲット…。



認知症状のある人は表現するコトが得意ではなくなるようです。たとえ、反応が小さいようでも、お相手の《気》を感じ取るようにして、必要と感じたら、ワザを繰り出してお相手の不安を封じる…という姿勢をつくれたら、笑顔も増えてきそうです。

気持ちを感じてワザを提案

合気道は、相手の出方に合わせてワザを出します。認知症状のある人は、気持ちを出してきます。ときに、ご自分でも分からない気持ちを出してきます。その気持ちを感じて、不安を小さくするワザを工夫して出して気持ちを和らげるようにします。



認知症状は《百人百様》《百認百様》といわれます。体調にも影響されそうです。お相手がお好きなモノやコトを知っておき、さり気なく不安を外して、気持ちを楽にしてさし上げられると、ワザが一本決まった感じになるかも知れません。何回もつかえそうです。